

- ①大刀形 ②盾形 ③鞞(矢を入れる道具)形 ④盾形 ⑤鞍形 ⑥巫女(今回復元) ⑦大刀形 ⑧盾形
  - ⑨家形 ⑩鞍形 ⑪盾形
- このほか、力士や動物埴輪などが見つかっています。

### 【コラム 下松の古墳】

下松市に広がる末武平野は、末武川・平田川・切戸川が作り出した扇状地で南は笠戸湾に面しており、三方を低い丘陵地に囲まれています。古代においては、笠戸湾の海岸線が平野深くまで入り込んでいたと考えられており、平野周辺の丘陵上に多くの古墳が築造されています。

下松で初めて築かれた古墳が末武平野東の陸繋砂州(りくけいさす)上に位置する宮ノ洲古墳です。古墳時代前期にあたる4世紀前半の築造と考えられており、三角縁神獣鏡など銅鏡4面が出土しています。また、4世紀後半から5世紀前半の年代と考えられている花岡古墳や形象埴輪が多数出土した天王森古墳、天王森古墳の西約200mに位置する天王森西古墳など前方後円墳も点在しており、ヤマト王権との関係性もうかがえます。

下松市の古墳からは埴輪も多数出土しており、県内唯一の馬形埴輪が出土した宮原2号墳、6世紀後半の築造で朝顔形埴輪や家形埴輪が出土した惣ヶ迫古墳、船を表現した線刻を持つ埴輪片が見つかった常森1号墳が知られています。宮原2号墳・惣ヶ迫古墳・常森1号墳はいずれも円墳であることから下松周辺の円墳には埴輪を伴う傾向もみとれます。

下松周辺の古墳をみていくと、古墳時代前期から後期にかけて連続して築造されており、古墳時代を通じて一定以上の力を持った首長たちが下松周辺を支配していたと考えられます。

インターネットで下松市の歴史や文化を学ぼう！



下松市 郷土資料 検索

## 下松市天王森古墳出土



西日本有数の形象埴輪群

みこはにわ  
巫女埴輪



# 天王森古墳の 巫女埴輪

この埴輪は、古墳時代の巫女を表現した人物埴輪です。

頭髮は、古墳時代の女性特有の髪型（前後でゆったり折り返される島田鬘風の髪型）です。

首にはボタン状の粘土が貼り付けられ、首飾りを表現しています。衣装は、意須比（おすい）とよばれるもので、袈裟状のものを右肩からゆったりと下げています。また、この意須比の下端はその下に穿くスカート状の裳とともに欠損しています。

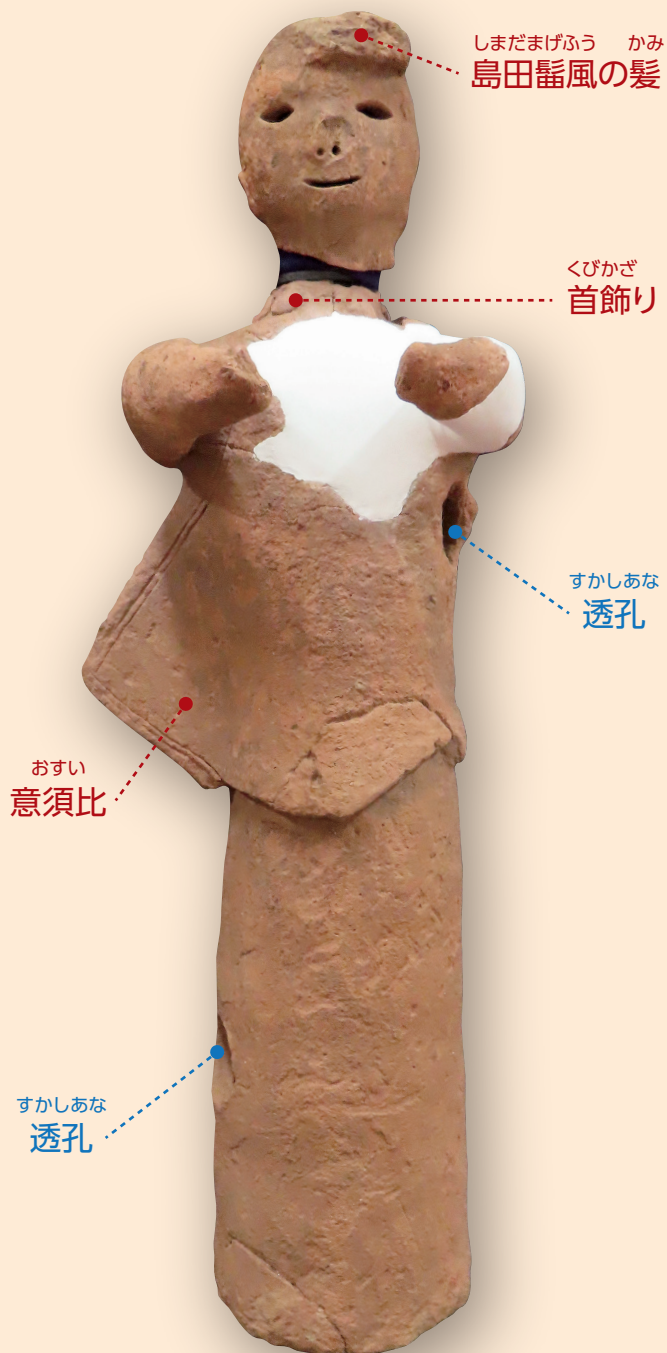
意須比に水平にかける帯は省略されていますが、背中で8の字に交差する襷は带状の粘土で表現されています。胴部の下半は円筒形で足の表現はありません。

丸顔の作り方や細い首、耳の表現など近畿地方の埴輪の作り方に共通する点もあります。

古墳時代の巫女は、葬送儀礼などの際首長や靈魂に対し捧げものを差し出す重要な役割を果たしたと考えられていますが、この埴輪も両手で胸の前に容器を捧げ持つ仕草をしています。



▼ 正面から



▼ 背面から

